

二月十七日午後七時八十分、歓迎會が本館和モールド入小野田にて開催され、午後七時半より十二時半まで開催された。この間は議論が繰り広げられ、加藤は主張を述べ、日本を第一に安全第一とし、十日後には再び開催する旨を表明された。これは、政府の命で、日本へ向かうとされた。

平井義人（大連紹合科長）

武田モトト（中華会議員）

小林好文（支那監査官）は、午後六時半から九時半まで開催された。この間は、日本へ向かうとされた。これは、政府の命で、日本へ向かうとされた。

小林好文（支那監査官）

スル（支那監査官）

スル（支那監査官）

ノニ學者ヤ記者ガ反對ノ聲ヲアゲナインハ學者ヤ記者ガ何力政府ヨリ利益ヲ得タノカモ知レナイ、ビスマルクガ過激ナ分子ヲ壓迫シタガソノ獨逸ノ現狀如何、自由放任ノ英國ノ現狀ハ如何、我々ハ戰ヲ挑マレタノダ我々ハ立ツダケノ氣力ヲ持ツテヲル、日本ヲ愛スル人々ハ今少シ考ヘテ欲シイ諸君ハ十一日ノ示威運動ニ加ハツテ下サイ

小林反逆團員

頭ノ惡イ内相ハ浪花節ヤ落語ヤ活動寫真ヤ變手古ナ宗教テ思想ノ悪化ヲ防止セントシタガソレデモ巡查サヘモ主義者ニナルカラ政府ハ驚イテ過激法案ニ思ヒツイタノデアル、過激法案ハ導火線ニ火ヲツケル様ナモノダ、我々ハ國家ノ干城ダト斷言スルモノダ、政府安政大獄ヲ知ラズヤ、反逆ニハ眞理ガアル

飯石豊市（造船勞働組合員）

過激法案ヲ提出スル政府ハ狂人ダ爆裂彈ハオサヘツケタナラバ危